

2010年2月26日

県民の政治意識
第30回モニター調査
報告書
(2010年2月2日～15日調査)

調査の設計	1
結果の概要	3



社団法人 長野県世論調査協会
Tel 026-233-3616 Fax 026-233-3610
<http://www.nagano-yoron.or.jp>

I 調査の設計

調査の目的

日本政治の流れを画すとされる政権交代で登場した民主党・鳩山政権が発足半年を満たさない段階で、きびしい逆風の試練にさらされている。昨年の衆院選で300議席を突破した民主党を軸とする社民党、国民新党の連立政権は、盤石の安定体制を確保し、自民党の長期政権に変わる「新しい政治」に道を開くかにもえたが、国民の期待感は急速に冷え込む様相だ。

「政治とカネ」「沖縄基地移設」「景気回復」のいわゆる3K問題の重圧がのしかかる。とりわけ、民主党のツートップ、鳩山首相と小沢幹事長の政治資金にまつわる疑惑に対する失望、反発は、ストレートに政治の信頼性と政治家のリーダーシップを揺るがせている。

国会の新年度予算審議が政治資金問題に精力が割かれて盛り上がりや欠く中で、民主党が衆院選に掲げたマニフェスト（政権公約）の政策は、きびしい財政ひっ迫で逸脱を余儀なくされ、国民の暮らしの先行き見通しが宙に浮く格好になっている。

この夏には参院選が控え、民主党が衆、参両院の単独過半数をもくろむ最大の決戦となる。自民党が谷垣体制で反転攻勢へと踏み出すことができるかどうか。県下では、参院選に引き続き知事選が予定され、村井体制の継続か刷新か、重要な岐路に立たされる。

年に2度、県民の政治意識の流れを追跡している定期モニター調査が第30回を迎える節目に、国民の選択のもの差しが多様化し、ますます複雑の度を増すなかで、県民は政治の現況をどのような態度でとらえ、どのような方向を望んでいるのかを探る。

調査の設計

調査方法

当協会の登録モニターに事前に調査票を郵送し、回答は郵送、ファクス、電話聞き取り、インターネットを併用して回収。

【モニター～継続的な調査対象者】

1995年6月の参院選直前、県下の満20歳以上の1000人を対象に、政治意識調査を実施。その際、追跡調査に協力できるという人たち678人を対象に、選挙直後の同年7月に「参院選の投票行動」調査を行った。

これを「第1回モニター調査」と位置付け、1996年2月に男女別、年代別、選挙区別などの比率が“県下の有権者の縮図”となるよう対象者を選定して第2回調査を行い、それ以降は半年間隔で年2回ずつ定期的に続行している。この間、モニターは若干の補正を重ね、今回調査時の登録数は530人。

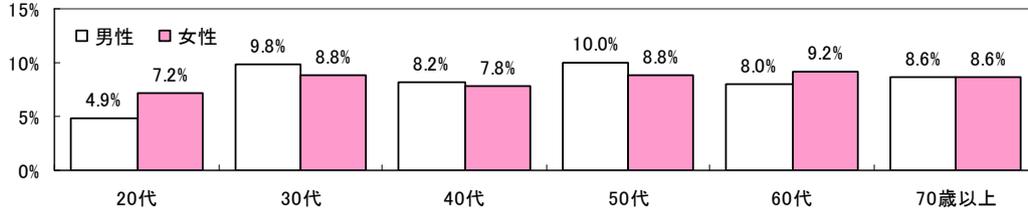
調査時期	2010年2月2日調査票発送～15日回収締め切り		
有効回収数（率）	511人（回収率96.4%＝男性253人 女性258人）		
回収内訳	郵送	263	（51.5%）
	ファクス	130	（25.4%）
	電話聞き取り	49	（9.6%）
	インターネット	69	（13.5%）

<注> 報告書のパーセント数字は小数点第2位を四捨五入。合計が100にならない場合がある。

回収サンプルの内訳

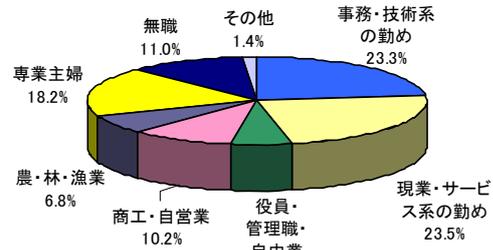
【性別と年代】

	合計	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
全体	511	62	95	82	96	88	88
	100.0%	12.1%	18.6%	16.0%	18.8%	17.2%	17.2%
男性	253	25	50	42	51	41	44
	49.5%	4.9%	9.8%	8.2%	10.0%	8.0%	8.6%
女性	258	37	45	40	45	47	44
	50.5%	7.2%	8.8%	7.8%	8.8%	9.2%	8.6%



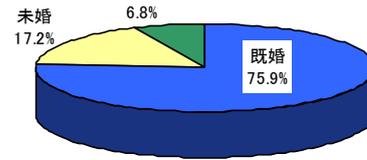
【職業】

事務・技術系の勤め	119	23.3%
現業・サービス系の勤め	120	23.5%
役員・管理職・自由業	29	5.7%
商工・自営業	52	10.2%
農・林・漁業	35	6.8%
専業主婦	93	18.2%
無職	56	11.0%
その他	7	1.4%



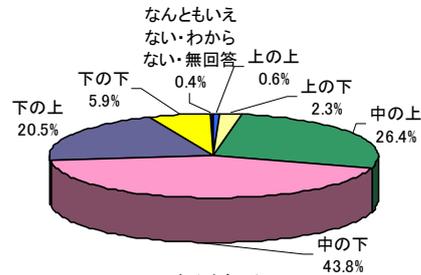
【結婚】

既婚	388	75.9%
未婚	88	17.2%
離・死別	35	6.8%



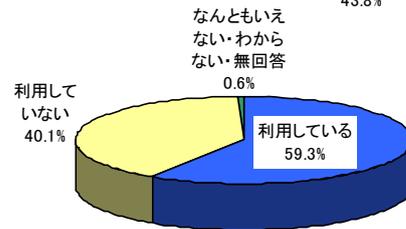
【暮らしぶり】

上の上	3	0.6%
上の下	12	2.3%
中の上	135	26.4%
中の下	224	43.8%
下の上	105	20.5%
下の下	30	5.9%
なんともいえない・わからない・無回答	2	0.4%



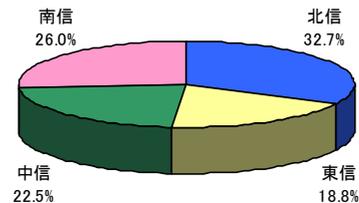
【パソコン・携帯電話でのインターネット】

利用している	303	59.3%
利用していない	205	40.1%
なんともいえない・わからない・無回答	3	0.6%



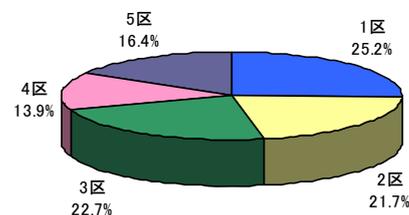
【地域】

北信	167	32.7%
東信	96	18.8%
中信	115	22.5%
南信	133	26.0%



【選挙区】

1区	129	25.2%
2区	111	21.7%
3区	116	22.7%
4区	71	13.9%
5区	84	16.4%



II 結果の概要

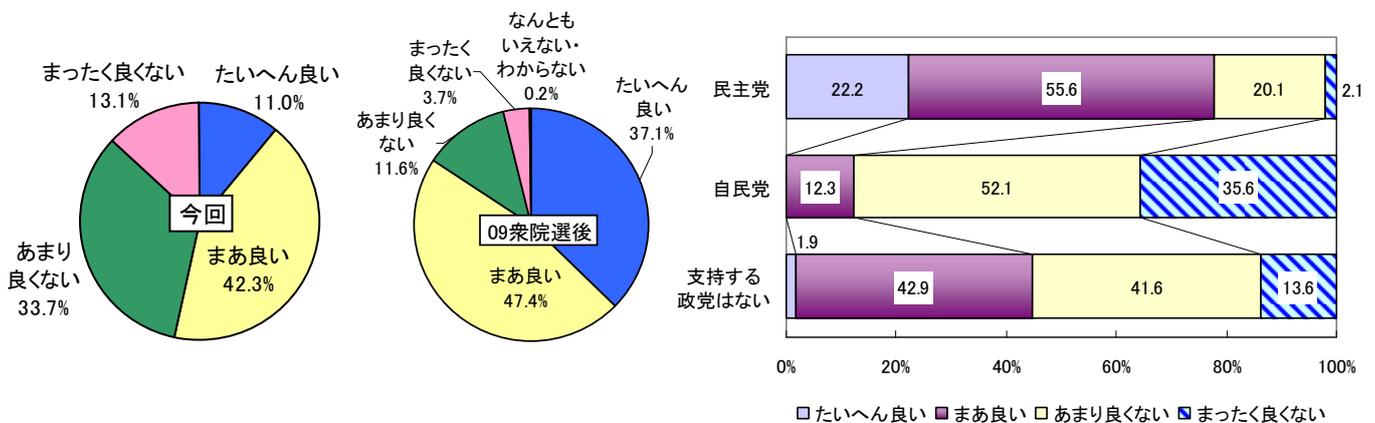
政権交代の鳩山内閣

政権交代の評価、今は？

◆「たいへん良い」急降下10%余 無党派層「良くない」半数突破

政権交代が「良い」が総体で半数を超え、その内訳は「たいへん良い」が11%、「まあ良い」は42%。昨年の衆院選後の前回（第29回モニター調査＝以下同じ）よりも30ポイント余の大幅下落。男性で「良い」が60%に届く半面、女性は「良くない」が54%に逆転する。

政党支持層では、民主党で80%に近づくが、自民党では「良くない」が90%に迫る。無党派層は「良い」が45%と半数を割り込む。



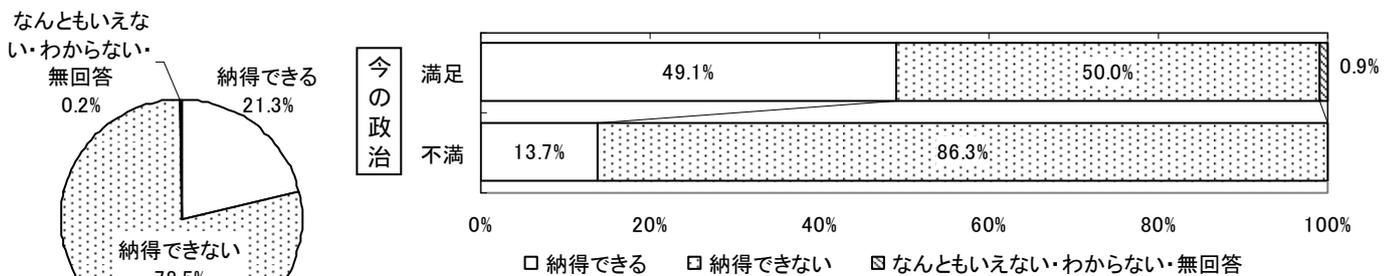
鳩山首相の政権運営

◆指導力の発揮「評価する」27% 政治主導には48%

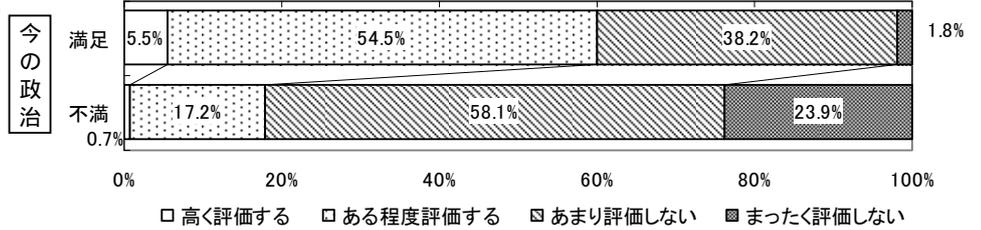
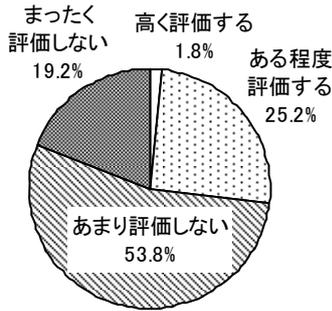
偽装献金問題に関する鳩山首相の説明に「納得できる」が20%余にとどまり「納得できない」は80%近くにのぼり、男女を通じて厳しい反応。年代層では30、50代で「納得できる」が20%にも届かない。

今の政治に満足する層の約半数が「納得できる」とする半面、不満の層では「納得できない」が90%に近づく。

A 偽装献金問題の「鳩山首相の説明」について

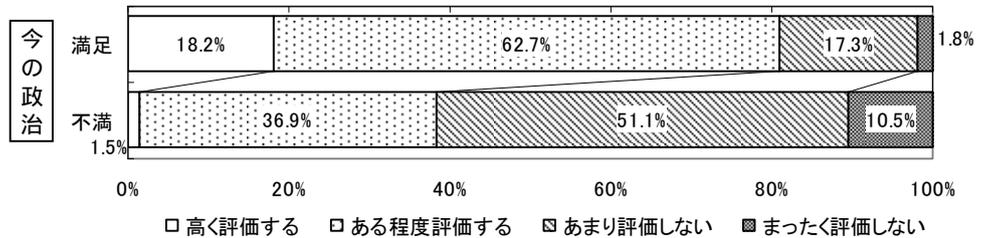
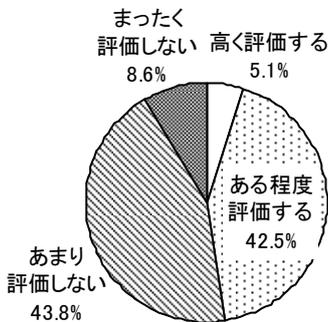


B 鳩山首相の「指導力の発揮」について



鳩山首相の指導力に「評価する」が27%に低迷し、否定的な評価は70%を突破する。70代のみ「評価する」が44%に跳ね上がるが、全年代層で「評価しない」が大勢を占める。

C 予算編成や国会審議の「政治主導」について



政治主導の取りくみには「評価する」が48%、「評価しない」が52%の伯仲。その中で、男性や50～70代の年代層では肯定的な評価が半数をクリア。職業層では商工・自営業、役員層などで多数を占める。

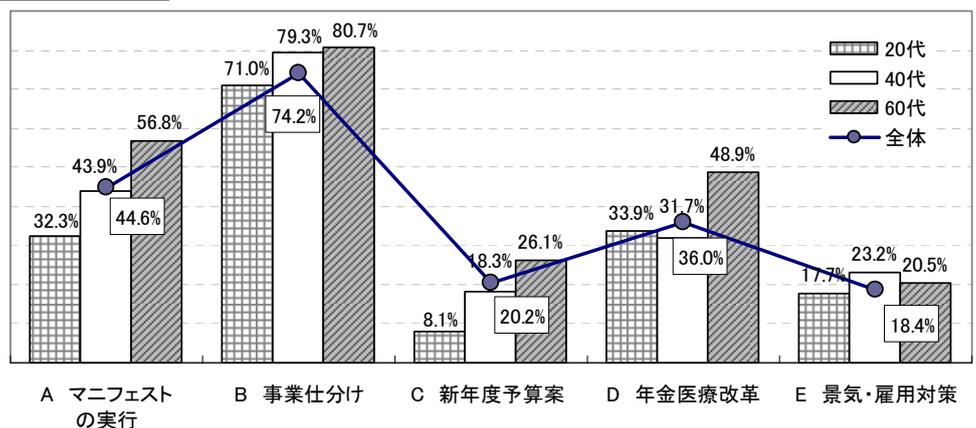
予算編成のなどの取りくみ

事業仕分け「評価する」4人に3人 雇用、予算には厳しく

政策推進の取りくみの中で、事業仕分けに「評価する」が74%と最も高く「マニフェストの実行」の45%が続く。次いで年金医療改革が36%。半面、景気・雇用対策と新年度予算には評価が厳しく、否定的な評価が約80%に跳ね上がる。

年代層でみると「評価する」でマニフェストが20代32% - 60代57%。いずれの取りくみも、年代層が上がるほどに評価が高まる傾向がみられる。

「評価する」合計では



鳩山内閣の評価

支持が55.0% 26ポイントの激減 不支持は44.2%

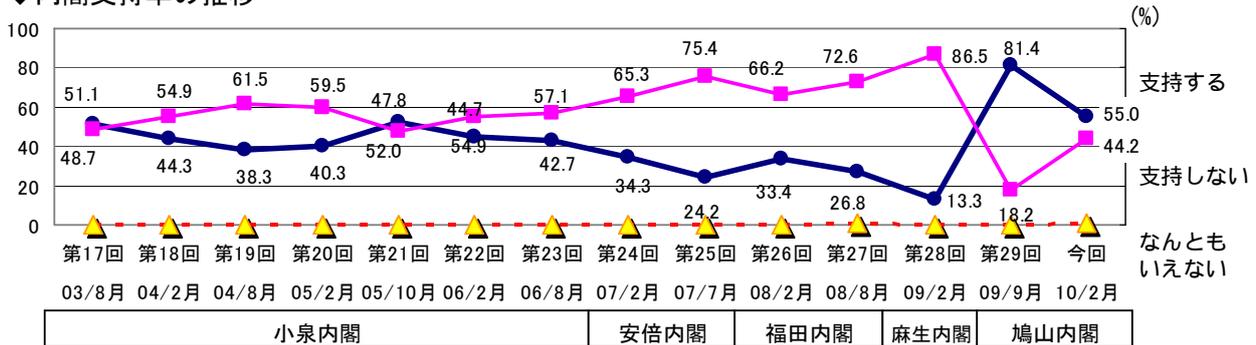
「支持する」が55.0%と前回よりも26%余の大幅落ち込み。「支持しない」は44.2%に伸び、その差は「63」から「11」にまで接近した。

女性の支持がやや下回る程度で、めだつた違いはみられない半面、年代層では60代の支持が65%と最も高いが、20代では不支持が55%の高さを示す。

<歴代内閣の平均支持率>

村山内閣	37.2%	(調査回数：1回)
橋本内閣	27.2%	(6回)
小渕内閣	17.5%	(3回)
森内閣	9.6%	(2回)
小泉内閣	41.3%	(11回)
安倍内閣	27.3%	(4回)
福田内閣	30.1%	(2回)
麻生内閣	13.9%	(3回)
鳩山内閣	68.2%	(2回)

◆内閣支持率の推移



	性別		年代			選挙区					政党支持		
	男性	女性	20代	40代	60代	1区	2区	3区	4区	5区	民主党	自民党	支持政党なし
支持	57.3%	52.7%	41.9%	57.3%	64.8%	55.8%	58.6%	56.0%	50.7%	51.2%	88.4%	11.0%	40.9%
不支持	42.3%	46.1%	54.8%	42.7%	35.2%	43.4%	39.6%	44.0%	49.3%	47.6%	11.6%	89.0%	57.1%

無党派層きびしく「不支持」57% 20代も半数突破

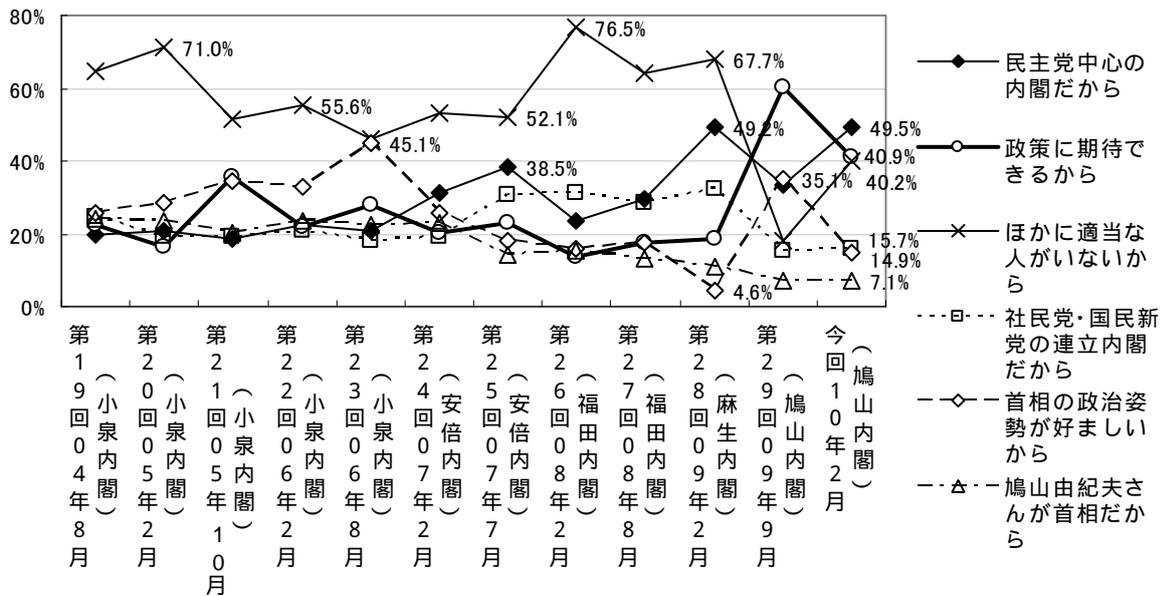
政党支持層でみると、民主党が88%の高率で、連立参加の社民党は71%の半面、国民新党は67%（回収数が少ないため参考値）。他方、野に下った自民、公明両党は支持がともに10%台に落ち込み、不支持が圧倒的に占める。無党派層は支持41% - 不支持57%に分かれる。

内閣評価の構造

支持する理由 「政策に期待」が後退 「民主中心だから」首位に

「民主党中心の内閣だから」が前回3位から急上昇してトップに飛び出し「政策の期待できる」が大幅ダウンしトップから外れた。「ほかに適当な人がいない」が増えて3位。「首相の政治姿勢が好ましい」（前回2位）が5位に後退。内閣支持の大幅下落をうけて、支持の理由も大きく入れ替わった。

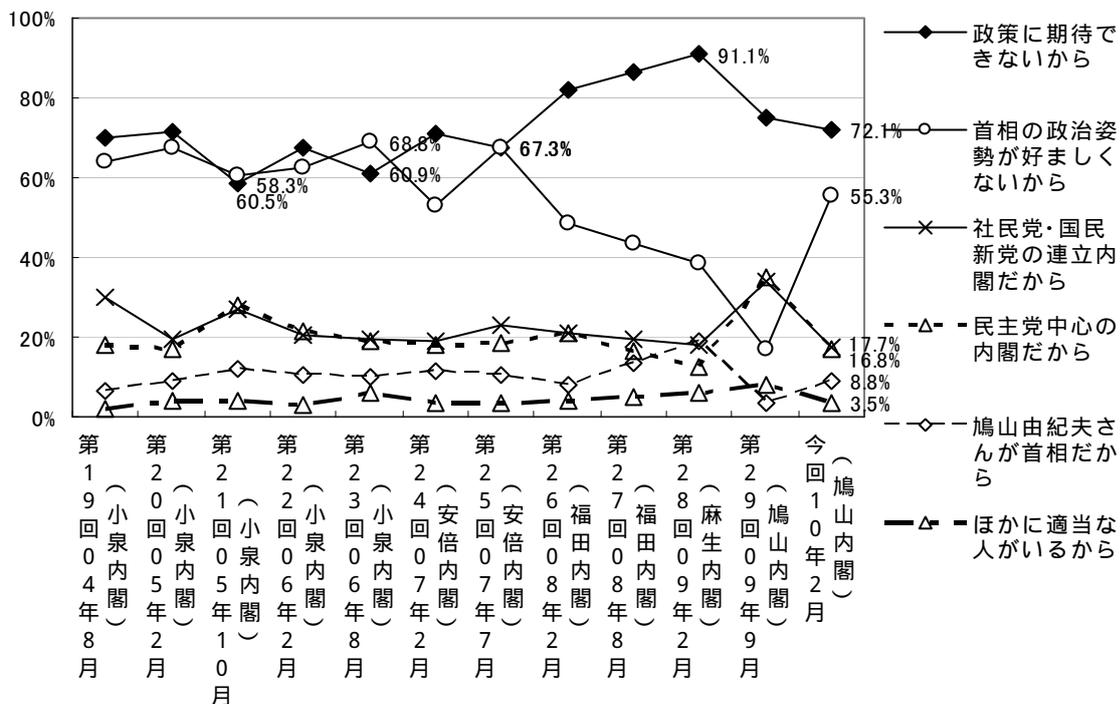
男性が「民主党中心」が伸びる半面、女性では「他にいない」がトップ。年代層では、20代で「他にいない」が突出。中高年齢層では「民主党中心」が伸び、70歳以上（以下「70代」と略記）で最も高まる。



支持しない理由 「政策に期待できず」が独走 急伸「政治姿勢」2位

自民・公明党連立の福田政権時代から独走の「政策に期待できない」がトップをキープ。その一方で「首相の政治姿勢が好ましくない」(前回4位)が急伸して2位に浮上した。「社民・国民新党の連立」が大きく下降したが3位にとどまる。

女性で「政策」がやや高めで、男性は「連立」が大きく引き離す。年代層では、40代で「政策」が突出する半面、70代では「政治姿勢」が際立つ。



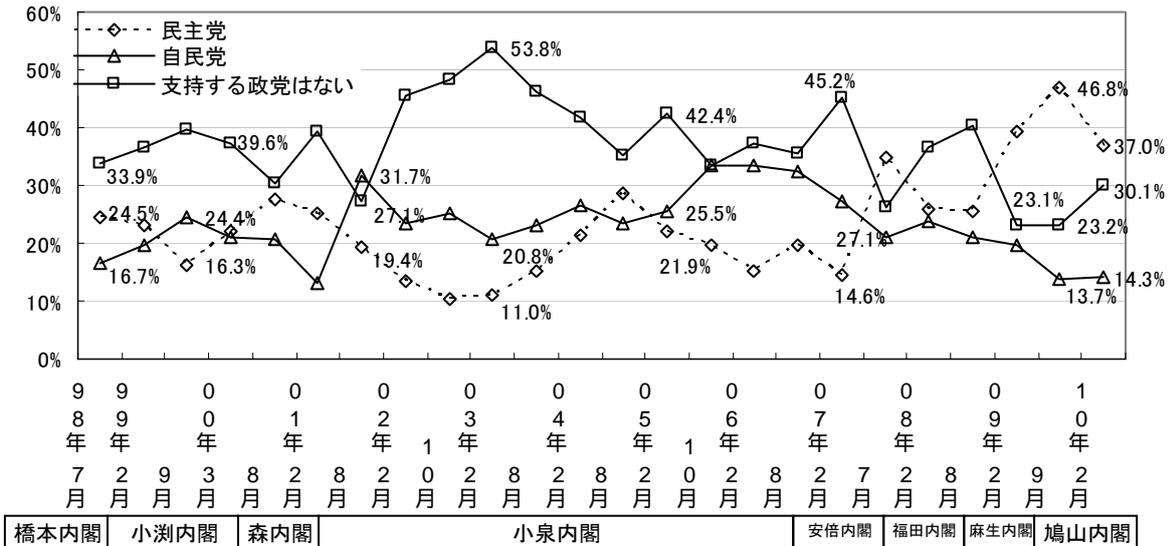
支持する政党

◆民主が大幅ダウン37% 自民は微増14% 支持なし伸び30%台

民主党が37.0%に約10ポイントの大幅ダウン、政権交代を実現させた衆院選後、最高（今の党体制が確立された1998年以降）の支持率を確保した前回から急転、1年前の野党時代の水準にほぼ戻した格好だ。対する自民党はほぼ横ばいの14.3%。

3位は共産党が5.5%で浮上し、3%台の僅差で公明党、社民党の順で続き、みんなの党が引き続き6位を確保した。支持政党なしは30.1%に伸びた。

【政党支持の推移】



政党支持の構造

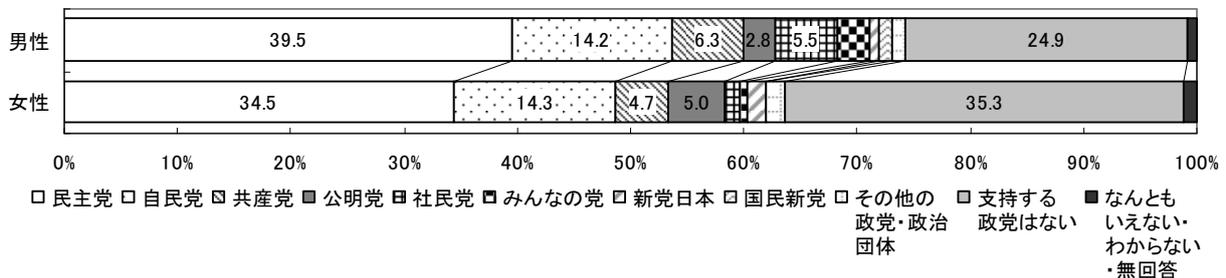
	全体	性別		年代			選挙区				
		男性	女性	20代	40代	60代	1区	2区	3区	4区	5区
民主党	37.0%	39.5%	34.5%	29.0%	31.7%	48.9%	42.6%	38.7%	39.7%	33.8%	25.0%
自民党	14.3%	14.2%	14.3%	9.7%	7.3%	13.6%	13.2%	14.4%	13.8%	14.1%	16.7%
共産党	5.5%	6.3%	4.7%	6.5%	7.3%	5.7%	4.7%	3.6%	8.6%	2.8%	7.1%
公明党	3.9%	2.8%	5.0%	4.8%	6.1%	2.3%	4.7%	3.6%	1.7%	5.6%	4.8%
社民党	3.3%	5.5%	1.2%	1.6%	-	6.8%	4.7%	3.6%	2.6%	-	4.8%
支持政党なし	30.1%	24.9%	35.3%	37.1%	42.7%	20.5%	27.1%	29.7%	28.4%	29.6%	38.1%

◆民主に男性40%—女性35% 自民には14%で男女並ぶ

民主党は男性が39.5%、女性は34.5%でともに下落。女性の支持が初めて上回った前回から、再び“男高女低”のパターンに戻った。

自民党には男女ともに14%台で並ぶ。男性で共産党が6.3%、社民党は5.5%と高め、女性で公明党が5.0%に高まる。支持政党なしは女性35.3% - 男性24.9%の開きがめだつた。

◆男女別では

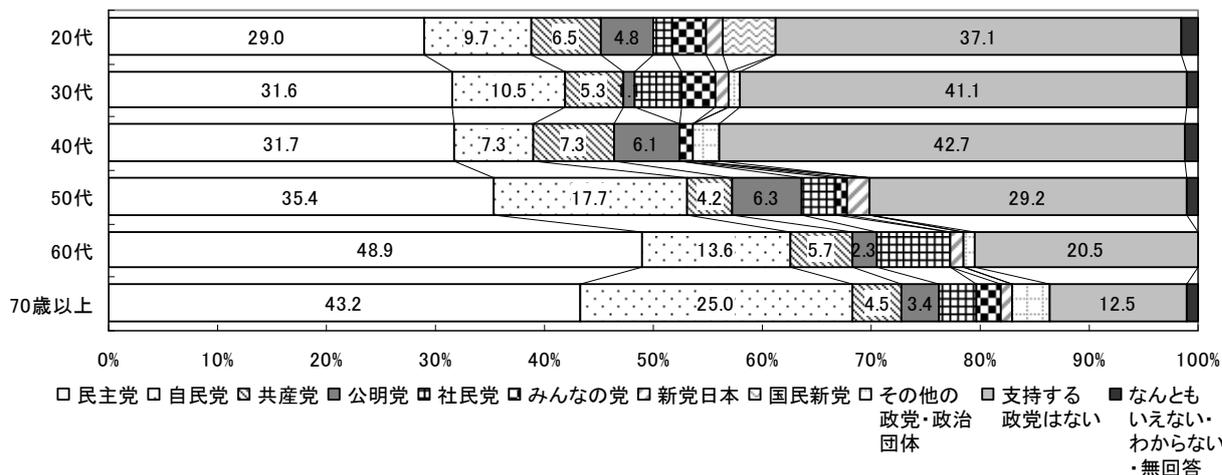


◆60代以上で民主40%台 30～40代は「支持政党なし」40%突破

民主党が全世代で自民党を上回り、60代 48.9%の最高。半面、40代までの若い年代層では支持政党なしの方が民主党を上回り、40代の42.7%が最も高い。自民党は中高年齢層で高めになり、70代で25.0%に高まる。

共産党が40代で7%台に乗せ、公明党は40、50代で6%台に伸ばす。社民党は60代で7%弱の最高を示す。

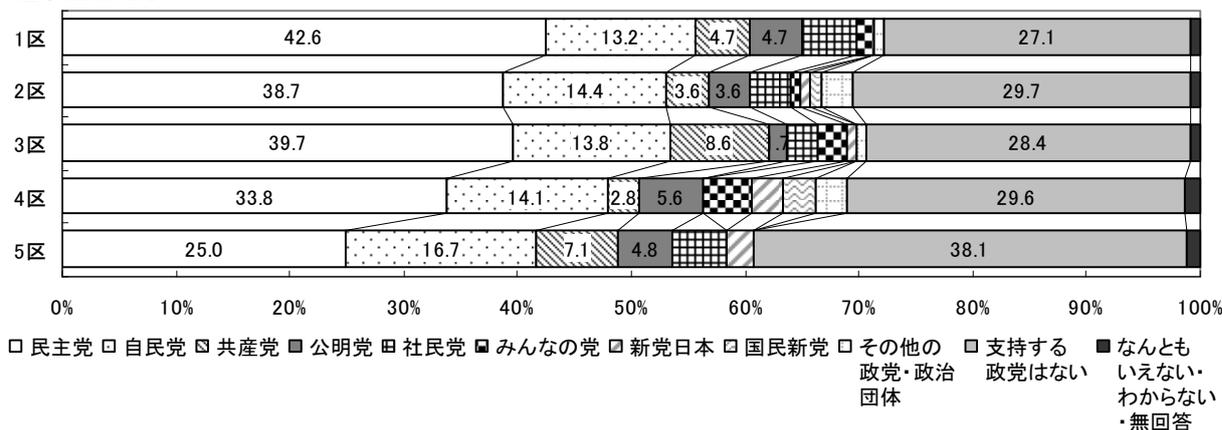
◆年代別では



◆1～4区で民主が大幅に引き離す 5区では民主・自民やや接近

民主党が5つの全選挙区で自民党よりも優位に立ち、1区の42.6%が最高。半面、5区で25.0%と低く、自民党が16.7%で最も差が狭まる。他方、共産党が7%台に伸ばし、支持政党なしが40%近くを占める。

◆選挙区別では



* 政党支持順位の6位以降「みんなの党～その他の政党・政治団体」は、回収数が少ないため参考値扱いとし、報告書本文、グラフでは一部省略。